

「こころと生活等に関するアンケート」の取組について

生徒指導支援室

1 アンケート実施の目的

児童生徒個別の調査結果をもとに教職員が児童生徒理解を一層深め、課題や悩みを抱える児童生徒に適切な指導や支援をより効果的に行うことにより、学力の向上、よりよい学級経営、いじめや不登校等生徒指導上の諸課題の未然防止・早期発見等につなげる。

2 実施の流れ

小4（悉皆）	小5以上（希望校・学年のみ）
事前説明会（5/13）	
アンケート実施（10,717名） ※ 5/14～6/29の間に実施	アンケート実施（10,490名） ※ 任意の時期に実施
業者にデータ送付 ※ 各校でデータ入力→個票の出力も可能	各校でデータ入力→個票の出力
業者より結果等の配付（8月下旬）	
結果等の分析をもとに、指導・支援	
事後研修会（10/25）	
研修会の内容を踏まえた指導・支援	

※ 生徒指導支援室ウェブページからデータをダウンロードできるようにし、任意の時期、複数回の実施も可。

3 事後研修会

(1) 参加人数 124名

(2) 内容

- ① 講演 奈良女子大学大学院 伊藤美奈子教授
- ② 意見交換会 小・中・高代表1校からの実践報告及び質疑応答

(3) 参加者の感想等

- レジリエンスの低い子どもには声掛けの仕方を工夫するなど、指導方法を見直すことにもつながり、データをうまく活用すれば、不登校やいじめ等を未然に防げると感じた。(小)
- アンケートは単年度では効果が見えにくい。毎年行うことで、児童の変容などを知ることができるため、継続が必要である。(小)
- いじめアンケートと併用して生徒支援に活用している。(中)
- 普段目につかない生徒にも着目することができ、声掛けや行動観察につながり、生徒理解が深まった。(中)
- 各学年ごとにファイリングし、いつでも見られるようにしている。職員研修及び各学年の会議で、★印のある生徒を中心に共通理解を図っている。(中)
- 本校では、懇談前に実施し、参考にしている。(中)
- 再度、結果と生徒の現状を照らし合わせてみようと思う。その重要性を他の先生にも伝えていきたい。(中・高)
- ▲ 気になる生徒がいたときに、結果を見るようにしている。(中)
- 4年生だけで完結してしまい、学校として取り組む必要性を感じる。(小)
- 本来なら、複数の目で見ていく必要があると思うが、アンケートの多さや多忙さ等により、管理職や担任が個々に目を通すくらいが現状である。(小)
- 2学期から突然不登校になった生徒について、改めてデータを見ると、「家庭の居心地」「自己評価・自己受容」が低かった。予見可能性が示されていたと思う。(中)